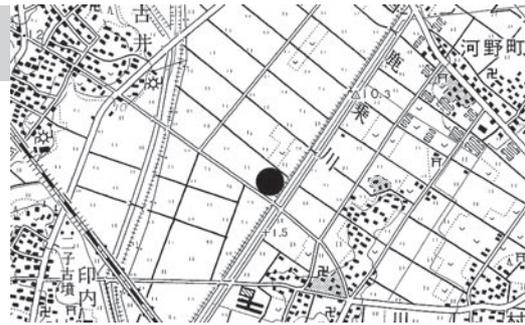


かみはしか
上橋下遺跡

所在地 安城市川島町・古井町地内
 調査理由 鹿乗川改修
 調査期間 平成16年1月～3月
 調査面積 600㎡
 担当者 小嶋廣也・松田 訓



調査地点 (1/2.5万「安城」)

調査の経過 調査は鹿乗川改修工事に伴う事前調査として、愛知県建設部河川課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成16年1月から3月にかけて実施した。調査を行った面積は600㎡である。

立地と環境 上橋下遺跡は、矢作川右岸に形成された沖積低地の中で、ここを流れる鹿乗川の西側微高地上に立地する。調査地点の旧態は水田で、周辺一帯は現在も水田が広がる。現地表高は、約3.0mを測る。

調査の概要 調査地点の基本層序は、客土の下に旧耕作土が0.2m入り、その直下に数層のシルトが堆積していて、灰色シルト層では古代末から中世の、暗赤褐色シルト層では弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が含まれていた。

調査地点は鹿乗川右岸に沿って、一昨年度・昨年度と順次北側から調査が行われており、本年度の調査区はこれら調査地点の南側に設定された。

昨年度までの両調査区で検出された自然河道は、今年度の調査地点でも縦断しており、上面で確認された遺構は、水田・溝・土坑などであった。遺物はこれらの遺構に伴うものがほとんど見られず、遺構の時期を特定することが困難であった。検出作業の段階で確認できたものは、わずかな灰釉陶器片、山茶碗片であった。

下面で検出された遺構は、方形周溝墓、溝、土坑などで、寄道式期と思われる土器片が確認できた。隣接調査地点では、方形周溝墓と考えられる溝が確認されており、これらの成果を検討することによって、遺構の性格が検証されるべきであろう。(松田 訓)



上面全景



東壁